



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年11月2日

上場会社名 株式会社 ハウス オブ ローゼ 上場取引所 東
 コード番号 7506 URL <http://www.houseofrose.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 神野 晴年
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 池田 達彦 TEL 03-5114-5800
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月9日 配当支払開始予定日 平成30年12月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切り捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の業績（平成30年4月1日～平成30年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	7,144	1.0	454	44.0	453	47.4	288	54.8
30年3月期第2四半期	7,071	3.3	315	45.7	307	49.1	186	36.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	61.34	—
30年3月期第2四半期	39.63	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	9,371	5,710	5,710	60.9	60.9	1,214.26
30年3月期	8,955	5,505	5,505	61.5	61.5	1,170.74

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 5,710百万円 30年3月期 5,505百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
31年3月期	—	20.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,300	2.3	680	22.4	680	27.9	350	23.9	74.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期2Q	4,703,063株	30年3月期	4,703,063株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	592株	30年3月期	592株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期2Q	4,702,471株	30年3月期2Q	4,702,524株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

度重なる地震や台風及び豪雨等の自然災害により被災された方々には、謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧、復興を心からお祈り申し上げます。

当第2四半期の国内景気は、企業収益の着実な改善や雇用・所得環境の向上等を背景として、緩やかな回復が持続しましたが、その一方で、世界的な通商問題の動向が経済に与える影響や不確実性が懸念される状況になりました。小売業界では、相次ぐ自然災害や異常気象が企業業績に影響を及ぼしたほか、個人の節約志向を反映した価格訴求型の事業者やネット通販事業者の伸長により、百貨店や大手量販店をはじめとした従来型小売業の経営環境は一層厳しい状況になってまいりました。

(直営店商品販売事業)

主力であるハウス オブ ローゼ直営店販売事業は、スキンケア化粧品の販売力強化と共に、新客数を含めた総客数の増加を重点課題として諸施策に取り組んでまいりました。9月にはエイジングスキンケアラインを一新した「エクセラージュ」ラインを発売したところ、発売当初からご支持をいただき売上にも貢献しました。またクール感のある「ミントリーブ」シリーズが猛暑で伸長したのをはじめ、他の期間限定商品も総じて好調に推移しました。販促面では、SNSをはじめとした諸施策を展開し来店誘致を図りました。一方出退店につきましては、1店舗を出店しましたが、不採算店や出店先の閉鎖により6店舗を退店したため、期初より5店舗の純減となりました。店舗数の減少により売上高は、前年同期比2.8%減となりましたが、既存店ベースではほぼ前年同期水準を確保すると共に、店舗利益は総額で増加いたしました。

ネット通販事業は、自社ネット通販において通販限定の販売促進企画を拡充すると共に、受注業務の改善を図る等、組織体制の強化を進めました。また夏季限定商品やサマーセール等の伸長などにより、売上高は前年同期比で30.4%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は52億89百万円(前年同期比2.2%減)、営業利益は1億39百万円(前年同期比55.1%増)となりました。

(直営店サービス事業)

リラクゼーションサロン事業は引き続き事業改善を進めており、今期は不採算店舗1店舗を含む2店舗を退店したため、店舗数は前年同期より6店舗減少しました。そのため売上高は前年同期比13.2%減となりましたが、既存店におけるサロンスタッフの技術強化を図ると共に、店舗環境の整備に取り組んでおり、既存店ベースでは売上高、客数とも増加し、収益性も向上してまいりました。

一方カーブス事業は、前期に出店した2店舗の育成に注力しつつ、既存店の底上げを図っております。会員数は一時減少しましたが、新店効果や会員数増加のための諸施策を講じた結果、期初より約200名増加し、売上高は前年同期比3.6%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は7億63百万円(前年同期比5.3%減)、営業利益は70百万円(前年同期比23.6%増)となりました。

(卸売販売事業)

店舗向け卸売につきましては、個人オーナー店舗向け、量販店向け共減少し、前年同期比2.8%減となりました。一方その他一般向け卸売につきましては、国内事業者を通じた中国向け越境ECの卸売販売が引き続き増加、売上高は前年同期比63.5%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は10億91百万円(前年同期比26.9%増)、営業利益は2億45百万円(前年同期比45.0%増)となりました。

以上、当第2四半期累計期間における全社売上高は71億44百万円(前年同期比1.0%増)となりました。また、店舗数減少によるテナント料の削減や店舗スタッフ数の減少に伴う人件費の抑制効果等により、販売管理費が前年同期より低減し、全セグメントで利益の増加が図られた結果、営業利益は4億54百万円(前年同期比44.0%増)、経常利益は4億53百万円(前年同期比47.4%増)、四半期純利益は2億88百万円(前年同期比54.8%増)となり、増収増益を確保いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末より4億16百万円増加し、93億71百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末より2億71百万円増加し、53億50百万円となりました。これは主に現金及び預金が3億88百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末より1億44百万円増加し、40億21百万円となりました。これは主にリース資産が41百万円、投資その他の資産(その他)が11億15百万円増加したことによるものであります。

負債合計は、前事業年度末より2億11百万円増加し、36億61百万円となりました。これは主に電子記録債務が79百万円増加したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末より2億4百万円増加し、57億10百万円となりました。これは主に利益剰余金が1億94百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、前回発表(平成30年5月14日決算短信)に記載の業績予想から変更しております。修正理由としましては、直営店商品販売事業でのリニューアルしたエイジングスキンケアラインの売上貢献や、中国向け越境ECの卸売販売が見込以上に伸長したこと、また、販売費・一般管理費の抑制効果があったため、現状に鑑み、通期業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,340,070	2,728,937
売掛金	1,129,725	982,735
商品及び製品	1,588,347	1,603,704
前渡金	12,082	23,874
その他	8,947	11,252
流動資産合計	5,079,173	5,350,504
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	362,313	355,872
土地	1,369,668	1,369,668
リース資産（純額）	155,309	196,421
有形固定資産合計	1,887,292	1,921,962
無形固定資産		
投資その他の資産	123,157	250,246
差入保証金	651,722	629,362
その他	1,215,029	1,219,645
貸倒引当金	△847	△144
投資その他の資産合計	1,865,905	1,848,862
固定資産合計	3,876,354	4,021,071
資産合計	8,955,527	9,371,575
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	469,034	498,491
電子記録債務	472,596	551,872
未払法人税等	175,872	186,697
賞与引当金	193,381	196,450
その他	672,204	677,162
流動負債合計	1,983,089	2,110,674
固定負債		
退職給付引当金	1,115,590	1,133,584
役員退職慰労引当金	69,264	62,824
資産除去債務	4,941	10,820
その他	277,263	343,663
固定負債合計	1,467,059	1,550,892
負債合計	3,450,148	3,661,566
純資産の部		
株主資本		
資本金	934,682	934,682
資本剰余金	1,282,222	1,282,222
利益剰余金	4,165,294	4,359,700
自己株式	△655	△655
株主資本合計	6,381,543	6,575,948
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	94,769	104,994
土地再評価差額金	△970,933	△970,933
評価・換算差額等合計	△876,164	△865,939
純資産合計	5,505,378	5,710,009
負債純資産合計	8,955,527	9,371,575

（2）四半期損益計算書
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）	当第2四半期累計期間 （自平成30年4月1日 至平成30年9月30日）
売上高	7,071,943	7,144,490
売上原価	2,020,159	2,052,602
売上総利益	5,051,783	5,091,888
販売費及び一般管理費	4,735,880	4,637,011
営業利益	315,903	454,877
営業外収益		
受取利息	859	741
受取配当金	1,845	2,610
不動産賃貸料	583	388
その他	2,479	2,487
営業外収益合計	5,766	6,227
営業外費用		
支払利息	372	2,901
リース解約損	13,334	4,437
不動産賃貸原価	245	239
営業外費用合計	13,953	7,577
経常利益	307,716	453,527
特別利益		
投資有価証券売却益	2,792	—
特別利益合計	2,792	—
税引前四半期純利益	310,508	453,527
法人税、住民税及び事業税	118,924	152,942
法人税等調整額	5,216	12,130
法人税等合計	124,141	165,073
四半期純利益	186,367	288,454

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。